

04年元旦は澄み渡る大空の下、各地を日本晴れが覆い経済復調への期待感を滲ませる曙光で明けた。昨年暮の東京株式市場は、1999年以来4年振りに、全面高で年初の株式を上回り、第1部の時価総額が27.3%の66兆300億円も増加した(日経)。経済界の舵取りをしっかりと願い、前を見据えて深呼吸。

造語で恐縮だが、今年は「資源監視力」を高め充実する年となるであろう。

我国の将来に亘る経済基盤の礎を築き、世界最高水準の科学技術力と昨年一気に開花したブロードバンドを活用したインターネットで、自信をもって国力蓄積の再スタートにしたい。

世界は年々、日々秒々の歸らざる変化を遂げている。1つの決断は、輻輳する国際関係、無数のあり得るべき場合と複数の選択肢の中からなされる。

よって、正確な情報入手による分析は、今我国の置かれている立場や影響力を、峻厳に判断するものであって欲しい。

来年度予算に占める国債の占める割合は、天文学的な数字であることが大きく報道された。最早、ビター文の無駄使いを政治家や官僚に与えられない。この権利の行使は選挙のみである。有権者は一日も早く目覚め、実行するか否かで今後の国家の浮沈と望ましい国際評価が決定される。

それほど大きくはないが東西南北、妙なる四季の素晴らしき自然の姿と景観に恵まれた日本は、潜在天然資源の宝庫。海洋法の改定以来、近隣のロシアと中国で、着々と海洋調査が深く静かに進展し、我国周辺海域で海上自衛艦による厳しい監視と神経戦が繰り広げられている。

今や、資源監視力が国民全員の共通認識となることが大切。

万国に平等な国際法の下、自由競争の様相を呈して来た大陸棚の資源調査と自国の権利の主張及び確保が喫緊の最重要プロジェクト。この為に、国家の全神経・持てる全ての科学技術力と予算を投入・公開し、産官学で取組むことを提案する。

我国の安全安心な伝統的漁業資源、価値ある鉱物資源及びエネルギー資源が存在する可能性が指摘されている。眠れる天与の周辺海域の資源確保・開発を、努々、両大国に先を越されてはならない。